

調査の流れ

3回生は、「製造業企業におけるWLBの実践の特徴、課題の解析、企業ごとの特徴の分析」をしました。WLBに積極的に取り組む2社をピックアップし、経営層・従業員へのヒアリングとともに従業員意識調査を実施しました。

まず、集まった調査票を分析しました。複数の分析モデルと仮説を設定し、重回帰分析という手法により、原因となる



諸要素、例えばWLBの充実度、経営戦略の定着度、上司や同僚とのコミュニケーションの活発度等

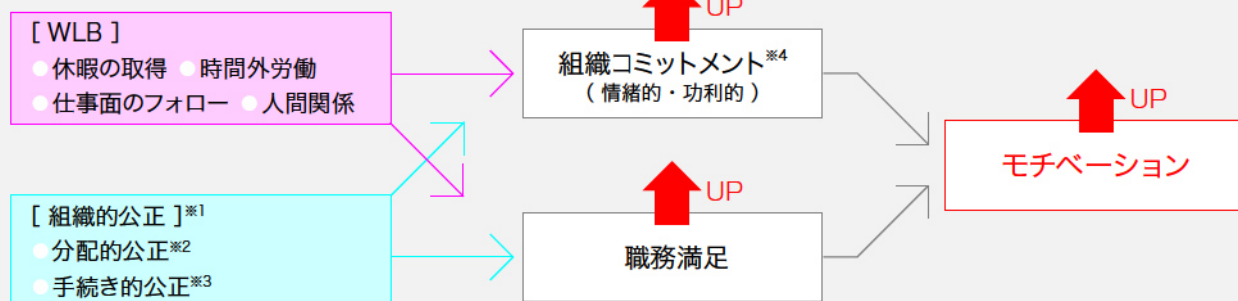
の実態を把握し、それが従業員の会社への愛着や仕事への意欲などに、どの程度影響を与えているかを分析しました。



次に2社を訪問し、経営層や従業員にヒアリングするとともに、分析結果や改善指針の提言などの報告をしました。

発表会では、上記報告とヒアリング結果をまとめて発表しました。

分析モデルの一例



【注】以下は従業員の主観的評価

※1 自社は公平な組織だ ※2 賃金等処遇が公平だ ※3 人事評価等の諸制度が公平だ ※4 会社に対する愛着、利得感情等

発表内容

いずれの会社も、高度の専門技能を有する職人集団で、従業員の責任感が強く、経営戦略への理解度が高いという優れた特性を有する、という強みが明らかになりました。

また、今後の課題として、①職場内コミュニケーションを高め、仕事に関わる正確な情報を共有することが、従業員の職務への充足感やモチベーションの向上につながること、②客観的で平等な人事評価処遇制度の構築が、従業員の企業に対する信頼感と愛着に影響することが分かりました。

さらに、インタビューでは、既にWLBの取組が進んだ会社であっても、新たに工夫して取組を続けることが重要であるという話を経営層の方から聞くことができました。

2018年度も引き続き、県内の重点産業である製造業を中心に調査し、業界の特性等を分析したいと考えています。

